



ています。昨年、東京で個展をしたときに、鳥取市での私の状況を説明する機会があり、実はすごくうらやましがられました。そういうふう

に、大変すばらしいと思います。花井 私は福岡の窯元で3年間修行し、独立を考えているときに、鳥取市への移住のお話をいただきました。移住を考えるにあたり、陶芸をする場合は、仕事場として作業場が広い方がありがたいので、一つひとつの家が広く、空家の物件が多いのは魅力的でした。また、創作活動していくうえでも、周りの自然から得られる情報がたくさんあり作品に生かしていきたいと思っています。

また、お話をいただいたみなさんの取り組みや、鳥取のすばらしさを共有して、理解していくことが鳥取市の魅力を発信するスタートとなり、非常に大切なことだと思っています。

山根 らっきょう女子会のメンバーは、私のようなラッキョウ農家のお嫁さんや娘さんの集まりです。毎回集まって楽しくお話しするうちに、商品をつくらうかということになり、自分たちで栽培したラッキョウを新しい味で漬けて売っていくという活動をしていました。新商品の「あなたにパカッとほしい」は、個包装になっており、一回ずつ食べ切りになっていきます。おとしから、女子会用の畑をつくり、みんなでトラクターや機械を使って収穫したラッキョウを使用しています。

山根 個人的に直接つながってなくても、知り合いのまた知り合いが弾んで、新たにいろいろとながっていく感じがします。やはりそれも都会ではなかなかつながりにくいだろうと思えますが、鳥取だからこそ広がっていくのかなと思えます。

深澤 そこが鳥取の一番いいところではないかと思えます。人のつながりが少し希薄化してきている中で、いま一度、身近な人との確かなつながり、これを大切にしながらみんなで一緒にやって取り組んでいくことで鳥取市の明るい将来が開けていくと思えます。

花井 私のような若い作家、創作活動をする人たちは、制作場所が必要ですが、都会では家賃の問題など場所を確保することは簡単ではありません。別の仕事をして、制作時間を削ってまでお金を稼いで、その空いた時間で制作をする、そういうことになると思生じているのではないかと

吉田 この場所も元は空き家でした。空き家といえばやはり古いというイメージがありますが、私はそれがその建物の個性だと思います。あとはもうその個性の磨き方、そのときの流行があると思うので、それをスパイスとして加えながらつくっていくというのがいいと思います。

前岡 ブドウの品種にこだわり、鳥取にしかないワインということをめざして頑張っていますので、まずその生産量をあげるため、スタッフとともに頑張っています。また、人のつながりで育てていただいたワイナリーです。今日ここでまた新しく出会ったみなさんともコラボして何かできたらいいなと思いました。

前岡 私も人がつながるといこうことが力になると思っていて、その先に人が育っていくことが大切だと思います。ですから、つながることで私自身も育ちながら若い世代も一緒に応援して育て、ともに育ちたいという思いがあります。



地域の人とつくりあげるワイナリー

な場所になりたいと思っています。私が今住んでいる国府町は60年の歴史を持つブドウの栽培地です。私自身ワインが好きなこともあり、ブドウ栽培のノウハウがある国府町で6次産業を興したいと思ったときに、大好きなワインをつくるというはごく自然の流れでした。出会ったみなさんに助けていただいて、地域の人とつくりあげるオール鳥取のワインづくりをしたいと思ってやっています。

深澤 地域での確かなつながりを大切にしながら、お互いに支え合っていく、いわゆる地域共生社会を鳥取市としても目指しています。前岡さんはそれを既に実践されていますし、また、6次産業化にも先進的に取り組んで



楽しい会話の中からアイデアが！



山根 鳥取市の湖陵高校で独自に作っている「オアシス」という飲み物があります。今年、その「オアシス」をラッキョウの味付けに使い商品化する準備を進めています。子どもたちとコラボした商品を、これからもどんどんつくりたいと思っています。

山根 個人的に直接つながってなくても、知り合いのまた知り合いが弾んで、新たにいろいろとながっていく感じがします。やはりそれも都会ではなかなかつながりにくいだろうと思えますが、鳥取だからこそ広がっていくのかなと思えます。



西郷工芸まつりでのワークショップ

※座談会の内容は要約しています。

座談会の模様は、いなびりびよんネット(12ch)で放送します。  
日時：1月1日(火・祝)～5日(土) 6:00～、12:00～、21:00～  
ほか、デジタル放送の電子番組表をご覧ください。